

猶一て山伏同前に^牛王を敷を出し岩坊
とめて衆を誘ひりるや大座の初穂散後亦
も列當之先達同前に配ふとん

一御師

其の長三年光厳院より吹浦進爲部(巻一)
この少侍の内は御師を冠とあり今ハ其職
をさよや但御師普流院と書出るれと見
る事あり按さるに上右等目ありける時の
名目も山伏は残り一もや但源氏物語玉
葉の巻は右をりるハ此の右の方よりとる

よきよりけ御師ハ此とありしをぬきよや西
の宮にまがりるものとあれを御師なりととも
御師といふ(さよや)東鑑より御師を括
して御師といひしを又曰年来御禱師權
祢宜光親神主弘安元年公卿勅使記云
無風雨之難無爲可遂使節之由殊可祈
請之旨可仰本宮御師并祭主官司云々
御師ハ此禱師の畧とる

一目代

この向村は目代屋敷といふありと云ふ雅集に